

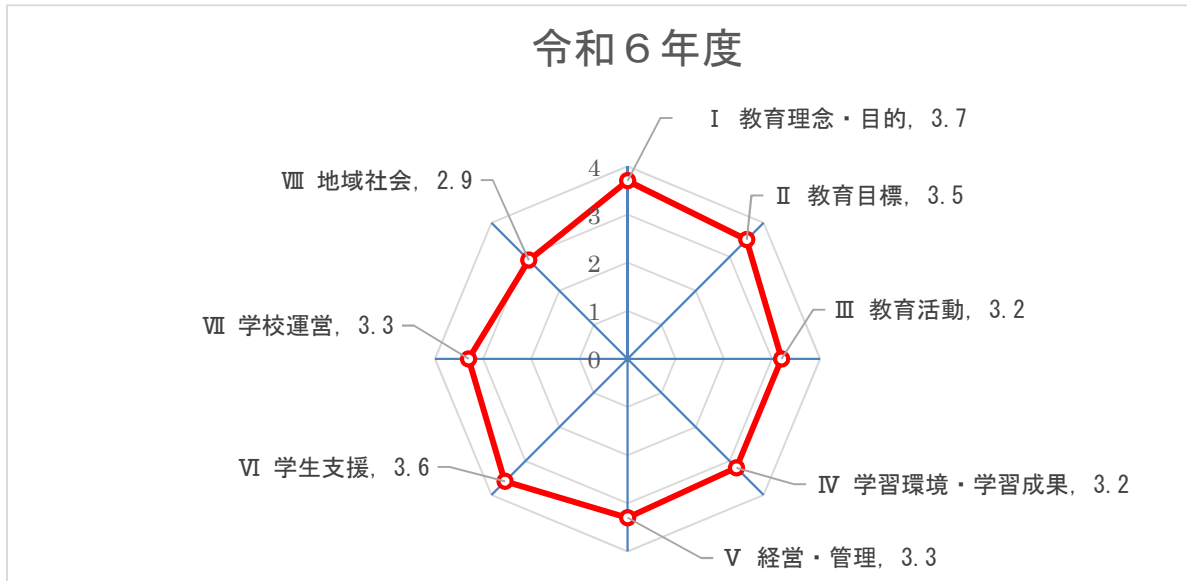
令和6年度 自己点検・自己評価まとめ

和歌山県立なぎ看護学校

【評価方法及び評価点数】

カテゴリーⅠからⅧについて、全教員が評価を実施し、その後、学校関係者（外部委員）による評価を実施した。

学校の教員分については、「とてもそう思う：4点」「そう思う：3点」、「そう思わない：2点」、「全くそう思わない：1点」として該当するそれぞれの項目（計53項目）について評価し、平均値を算出した。



【現状及び今後の取組】

- 「Ⅷ. 地域社会」以外は3点以上であった。今後も学生と教員による評価を継続し、目標を達成できるよう具体的な対策の検討を行っていく。また、実習評価については新カリキュラムへの改正後3年経過したことから、ルーブリック評価の評価基準のさらなる明確化と教員間での共通理解を図っていく。
- 教員の負担軽減については、主管部局とも十分連携し、人員の確保を図っていく。また、教員確保のために、卒業生等に対し採用試験等の案内に努める。
- 学生の背景は多様化していて、学力やモチベーションの個人差は大きいですが、学生への指導は、今後も保護者とも十分連携し、個別性を考慮し支援していく。
- 令和元年度から実施している高等学校訪問を、教育学習アドバイザーの同行のもと実施し、当校が望む学生像を伝えるとともに、ホームページや広報誌、オープンキャンパスによる学校紹介を実施した。今年度より公式SNS（Facebook、Instagram）を立ち上げ、より多くの人に学校を知ってもらえるよう発信している。また、和歌山県南部の高等学校に加え、三重県南部の高等学校との連携を強化し、今後も紀南地域の看護師不足の解消に向けて一層の協力を呼びかけていきたい。
- 卒業生の就業においては、県内及び実習協力病院への就業率は7割を超えている。引き続き実習協力病院と連携し、地域の看護師確保に貢献していきたい。
- 学生自治会による近隣の福祉施設との交流や学校祭を通じて、地域に根付いた学校として存続していきたい。